
兄弟関係

ゆいがし

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兄弟関係

【Nコード】

N6283D

【作者名】

ゆいがし

【あらすじ】

兄を異常なほど崇拜する弟の結果。

（前書き）

断片的な会話です。
連載ではありませんので。

こんな時ばかり、と僕は何だか分からないモノへ向かって心の中で叱責した。

辛そうな顔をして呻いている兄に僕は何もかける言葉が見つからなかった。

兄に何も出来ない自分への怒りと、情けない兄に対しての失望を伴う怒りが鬨ぎ合った。

弱い人間は嫌いなんだ。

「……と……も……也」

兄は涙でぐちゃぐちゃになった顔を苦痛に歪めていた。

以前の兄からは想像がつかない。

「助……けて……くれ」

僕のジーンパンの裾を掴み、兄は懇願した。

「死……にた……くな……い」

無様だった。

いつでも己を信じて誰の言葉にも耳を貸さずに、誰にも頼らずに、堂々していた兄。

兄以上に高い人間は居ないと信じていた。理想だったんだ。

こんな姿は見たくなかった。

「友………也………」

僕は血で薄汚れたスニーカーで兄の手を踏みつけた。
足首を捻りながら、踵を兄の手に擦り付けた。

「あつ……あがつ………や……めて……く………」

ミシミシと何かが音を立てる。

僕は理想をこれ以上壊したくなかった。
だから、そんな兄の声は聞きたくなかった。
手にしていた銃を兄へ向けた。

「兄さん」

兄は顔を上げ、途端に目を見開いた。
口をだらしなく開けて。

その口元へ目掛けて発砲した。
言葉にならない叫びが、溢れた。

兄の手は僕が足で押さえていたために頭だけが後ろに仰け反る。
何かが飛び散ったが、大して興味は無かった。
痙攣を起こす兄の身体を見て、僕の理想がまた崩れていくのを感じた。

理想ほど脆いものは無いかもしれない。
それでも夢を見ずにはられないから。
僕はゆっくりと引き金を引いた。

兄さん。さようなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6283d/>

兄弟関係

2010年10月11日04時39分発行